

激震ロッテ、重光会長に捜査の手が伸びる時 創業一族からさらなる「逮捕者」が出る可能性

パク・サンジュ：韓国「中央日報エコノミスト」記者

2016年7月17日



逮捕された辛英子・ロッテ奨学財団理事長

不正資金疑惑に揺れる、韓国・ロッテグループ。7月7日にロッテ創業者一族の長女である辛英子（シン・ヨンジャ）ロッテ奨学財団理事長が逮捕されたのを契機に、捜査の手がグループ全体、特にグループトップに君臨する重光昭夫（韓国名・辛東彬）会長に届くかどうか最大の関心事となっている。

捜査をリードする韓国検察は、重光会長逮捕に至るまでの決定的な証拠を持っているのだろうか。また、今後の捜査でそのような証拠をつかむことはできるだろうか。

娘を送り込んだ会社を通じ不正資金を受け取った疑い

今回逮捕された辛理事長は、創業者一族で最初の逮捕者となった。捜査を担当するソウル中央地方検察庁は、辛理事長の容疑を背任および特定経済犯罪加重処罰などに関する法律上の横領・背任としている。

辛理事長は2012年以降、免税店や百貨店の入店や入居場所に便宜を図ったという名目で30億ウォン（約3億円）台の裏金をもらい、40億ウォン（約4億円）台の会社の資金を不正に取得したとの容疑を掛けられている。

이코노미스트

当記事は韓国の経済誌「中央日報エコノミスト」掲載記事の日本語訳です

辛理事長は、息子が発行済み株式のすべてを持つ有名ブランド品会社に3人の娘を役員、社員として送り込み、この会社を通じて不正資金を受け取ったとみられている。息子の健康状態がよくなく、実質的な経営は辛理事長が行ってきたとされるため、証拠隠滅も容疑の一つだ。辛理事長はすべての容疑について否認しているという。

辛理事長の逮捕を皮切りに、創業者一族からさらなる逮捕者が出る可能性も高まっている。創業者である重光武雄（韓国名・辛格浩）総括会長さえも、不正資金容疑を受けている。しかし、重光総括会長が90歳を超える高齢であることに加え、すでに入退院を繰り返している身であることを加味し、検察は召還しての捜査は難しいとみている。

一方、財界からはほかにも、これまでベールに包まれていた重光総括会長の3番目の夫人・徐美敬氏と、その娘・辛ユミ氏、重光会長と経営権争いを繰り広げた日本ロッテホールディングスの重光宏之（韓国名・辛東主）前副会長らが召還される対象となりそうだ。

「日本にいるから、われ関せず」とはいかない

徐美敬氏は、重光会長と前副会長との経営権争いについて、これまで一切自らの立場を明らかにしてこなかったため、世間の関心が集まりにくい人物だった。しかし検察は、徐母子が所有する不動産が重光総括会長の不正資金ルートになっていたとみているようだ。

また以前、ロッテが徐氏にロッテシネマにおける売店の独占運営権を与えたことが「不当な業務委託」と公正取引委員会から指摘を受けたことがあり、この点についての追及が再燃している。財界関係者は、「大企業が不正資金をつくるのは不動産取引やグループ内の不当な取引が代表的手段。徐母子に対する検察の捜査も、シビアなものになるだろう」と言う。

一方の重光宏之・前副会長は、韓国ロッテグループのグループ会社の役員を歴任した人物。日本ロッテホールディングス副会長も務め、日本のロッテグループの経営をリードしてきた。ロッテケミカル、日本のロッテ物産といった、日韓両国をまたがる経営に関与しており、「日本にいるから、われ関せず」では済まされない。前副会長側はすでに捜査対象となることを念頭に置き、検察出身の弁護士を増やすといった動きを見せているようだ。

今後の最大の関心事は、重光会長にどこまで捜査の手が伸びるか、だろう。この点については「重光会長にまで捜査を進められると思わなければ、最初から辛英子理事長の拘束といったロッテ一家への捜査には着手しなかつたらう」との声がある。

このため、ロッテグループは極度の緊張状態に入っており、今後の経営の混乱を生じさせないよう躍起になっている。グループ側はすでに、「辛理事長の逮捕は個人的な不正疑惑に過ぎない」と発表した。

だが、辛理事長の逮捕は創業者一族に対する検察からの信号弾とする見方が優勢だ。検察は6月10日にロッテグループに対し家宅捜査を行ったものの、このときは重光会長と関連した決定的な証拠は確保できなかったとされている。

これについて「家宅捜査はたんなるポーズに過ぎず、意味のある資料はすでに検察が持っている」とする声もあれば、「特定するだけの証拠が得られずに、周辺人物から逮捕しようとする戦略」との声もある。

重光会長に責任を負わせる決定的な端緒がなく、まずは通常の横領や背任などの容疑固めとして周辺人物から逮捕・捜査されるとの見方もある。検察はまず、グループの主要経営陣や重光会長と対立している宏之前副会長などを調査して疑惑を固めた後、捜査を進めながら重光会長に圧力を掛けるという可能性もある。

重光会長が呼び出されるのは7月中旬以降？

ロッテグループの主要幹部は「検察がすでに証拠を持っていたら、とっくに役員の何人かは召還されているはず。これまではっきりとした容疑を検察から聞いたことはない。辛理事長が逮捕され、容疑追究をしていく中で発見された新たな容疑などを重光会長と関係させようとしているのではないかと打ち明ける。

重光会長が呼び出されるのは7月中旬以降と見る司法関係者も多い。そして、重光会長が逮捕されるのは確実との見方もある。同時に、検察は容疑を立証できる証拠をとっくに持っていると言断する司法関係者もいる。

そのバロメーターとなるのは捜査期間だ。検察はひとまず9月中旬、旧盆時期の連休に入る前をデッドラインとしている。しかし、捜査が長期化すれば、重光会長の容疑への立証は難しくなるだろう。
